

おわりに

モンゴルにおけるワークショックは、昨年に引き続き、大変好評のうちに終了しました。労災病院グループがこれまで蓄積して来たじん肺やアスベスト関連疾患についての臨床経験が、症例検討を通して、モンゴル国の方々に伝わったものと考えています。昨年に引き続き実施いたしました症例検討を主としたワークショップは、フェイス・トゥ・フェイスのトレーニングとしての労災病院グループの方式が定着しつつあると感じました。

今回は、モンゴル国の保健省をはじめ、外交・貿易省の担当者の方とのモンゴル国における医療事情について有意義な意見交換を行うこともできました。現在、モンゴル国をはじめアジアの国々においては、日本がかつて経験してきましたじん肺やアスベスト関連疾患等の職業病が大きな問題となっております。これまで我われが蓄えてきた職業病についての知見を、モンゴルをはじめ、アジアの国々に伝達し、アジアの国々の職業病対策に貢献してゆくことが今後の我々の使命であると考えます。

独立行政法人労働者健康福祉機構
総括研究ディレクター 関原 久彦